

これからの梨の栽培管理について (第7号)

平成29年10月19日
JAなのはな、富山農林振興センター

本年の黒星病の発生は、生産者の皆様の精力的な対策の実施によって、昨年同様、「幸水」収穫前までは極少となりました。

しかし、「幸水」の収穫以降、8月の多雨や無防除状態等の影響により果実や新梢等に黒星病の発生・広がりが確認されました。

今後、黒星病菌は、①降雨により芽に侵入し翌春の芽基部病斑に、②落葉の放置は、翌春の地表面からの孢子飛散の原因になります。

来年の黒星病の発生を防ぐためにも、防除対策や落葉処理を徹底して下さい。

1 秋季防除は3回必ず実施して下さい！

回数	散布日目安	薬剤名と濃度	収穫前日数	散布量	対象病害虫	防除実施日(自己記入)
18	10月28～29日頃 (10月下旬)	ドキリンフロアブル 1,000倍 【展着剤】アピオンE 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	
19	11月7～8日頃 (11月上旬)	ドキリンフロアブル 1,000倍 【展着剤】アピオンE 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	
20	11月15～16日頃 80%落葉後	ドキリンフロアブル 1,000倍 【展着剤】アピオンE 1,000倍	3日	300 リットル	黒星病	

※「新興」など収穫中の品種に飛散した場合、3日(72時間)収穫できませんので注意して下さい。

2 本年も必ず落葉処理を実施して下さい！！

- 本年は、昨年と同様、黒星病がかなり減少しましたが、落葉処理を省略してよいわけではありません。
- 8～9月の降雨により徒長枝等に黒星病秋型病斑が発生していることから、落葉の放置は翌春の孢子飛散リスクの高まりに繋がります。
- 特に、来春、平成27年開花期のような悪天候になった場合、孢子の飛散による感染・発病が必ず起こります！！
- 精度の高い落葉処理を実施して、黒星病菌の越冬を防止しましょう！！

①実施時期：11月中下旬(落葉後)～2月末

②落葉処理の方法

- 落葉した秋型病斑葉は、風などで園地内を移動しますが、雑草の繁茂や道路との段差等により園地周囲に集中してたまりやすく、その部分が黒星病の一番の感染源となります。
そのため、まずは園地周囲の落葉を処分することが重要です(必須事項)。



●機械、労働力の都合に応じて、実施可能な方法を選択しましょう

方法	Step1 (必須事項)	Step2 (重要事項)	Step3 (重要事項)
1	園地周囲の落葉を松葉ぼうき等でかき集め、園地外で処分する。		
2	園地周囲や幹元の落葉を松葉ぼうき等で園地内部（モアやロータリーの通路）までかき集める。	園地全体をフレールモア等で葉を粉砕する。	
3	園地周囲や幹元の松葉ぼうき等で園地内部（モアやロータリーの通路）までかき集める。	園地全体をフレールモア等で葉を粉砕する。	粉砕後、園地全体をロータリー等で軽く（深さ3～5cm）耕起する。

※上記方法1～3では数値が大きいほど園地全体の落葉が処理でき、黒星病の発生防止効果が期待できます。ただし、モアやロータリーを所有していない場合でも、園地周囲の落葉は必ずかき集め園地外で処分してください（方法1）。

【処理の手順（最も効果的な方法）】



① 松葉ぼうき等で園地周囲の葉をかき集める



②モアで葉を粉砕



③ロータリーで耕起

(2) 落葉処理の留意点

- ①園地周囲に雑草が繁茂している場合は、落葉をかき集めやすくするため事前に除草剤等で駆除しましょう。
- ②葉の原形が残ると、病原菌はそのまま越冬します。機械による粉砕、漉き込みでは葉の原形が残らないようにしましょう。
- ③せん定枝の粉砕（チップパーやトリチュレーターの使用）は黒星病の発生に影響しないとされています。ただし、粉砕後、落葉と一緒にロータリー等で耕起すると土壌性病害（白紋羽病）の発生を助長させます。

★10月21日開催「黒星病対策研修会」へ是非参加願います！！